

薬剤師とつながるファーマッチング

利用者が薬剤師とつながり、スマートフォンで薬や健康について相談できるシステムの開発を、京都薬科大と京都府薬剤師会の有志、京都市などが進めている。自宅近くの薬局と薬剤師を検索して服薬などについて助言を受けることができ、2022年度に試験導入を目指す。

有する、がん治療や認知症ケアなど専門認定資格や、経験年数、子どもの服薬に詳しいなどの情報を、薬局の場所とともに紹介する。利用者が薬剤師とマッチングすると、スマートフォンのメッセージアプリを通じて生活習慣病予防などについて指導を受けることができる。顔の見える関係を築くため、利用者が予約を入れて薬局で薬剤師に症状を相談することもできる。薬剤師は相談を受け、医療機関への受診を勧めたり、市販薬で様子を見るよう助言をする。

府内全域での利用に向けて、運営組織の立ち上げや

京都薬科大・府薬剤師会など開発

スマホで相談 再来年度試験導入へ

入を目指している。新型コロナウイルスの感染拡大でオンライン健康相談が注目されているが、薬剤師の新たな役割をアピールする。薬局・薬剤師と市民をICT(情報通信技術)でつなぐ「ファーマッチング」構想。自治体が抱える課題解決のためのアイデアコンテスト(3月に東京大が主催)で全国1位の評価を受けた。

柱の一つの検索サービスは、それぞれの薬剤師が所



ファーマッチング構想について話し合う大学生や薬剤師、医師ら(昨年12月、京都市山科区・京都薬科大)
＝イラストと写真は同大提供



資金調達のクラウドファンディングを準備している。厚生労働省は、薬局・薬剤師を市民の健康維持と増進を支援する存在と位置付

け、「かかりつけ薬局・薬剤師」制度や病気の予防の助言を担う「健康サポート薬局」登録証事業を始めている。しかし、京都市内の薬局約700店舗のうち登録は26店舗に限られており、浸透していない。システムに携わる同大学4年の森田貴子さん(21)は「調剤だけ、薬を渡すだけと思われがちな薬剤師への認識を変え、健康寿命を延ばして病気の予防に貢献できる環境をつくりたい」。府薬剤師会の船戸一晴さんは「薬剤師が身近な存在として関わることができるよう、強みにしたい」としている。(鈴木雅人)